

尼崎市事業所景況調査

【 2019 (令和元) 年 10-12 月期 】

業況判断 DI は全産業でやや悪化、 製造業で悪化、非製造業では横ばい

<調査結果のポイント>

- ◎ **出荷額 DI・収益 DI** 製造業は低下。非製造業は上昇、とくに建設業で大幅な上昇。
- ◎ **仕入価格 DI** 製造業は 5 期連続で低下。非製造業は上昇。全体では 7 期振りに上昇。
- ◎ **設備投資** 製造業、非製造業ともに低下。製造業は東日本大震災直後と同程度の水準に。

<主要指標の結果概要>

- (1) **業況判断 DI** は、▲19.9 (2.9 ポイント低下) でやや悪化。来期は横ばいの見通し。
 産業別では、製造業は▲14.0 (8.5 ポイント低下) で悪化。非製造業は▲22.7 (0.4 ポイント低下) で横ばい。
 製造業の規模別では、大企業が▲5.3 (5.3 ポイント低下)、中小企業が▲15.8 (9.6 ポイント低下) でともに悪化。
 非製造業の業種別では、建設業が 3.3 (19.1 ポイント上昇) で改善、卸売業が▲7.4 (3.0 ポイント上昇) でやや改善、小売業が▲57.7 (10.7 ポイント低下) で悪化。サービス業は▲19.8 (1.7 ポイント低下) でやや悪化しました。
- (2) **出荷額・売上高・完成工事高 DI** は、▲14.9 (1.0 ポイント上昇) となり、マイナス幅がやや縮小。
- (3) **売上単価・客単価 DI** は、▲8.7 (3.8 ポイント上昇) で、やや改善。
- (4) **(原材料) 仕入価格 DI** は、29.9 (3.9 ポイント上昇) で、やや悪化。
- (5) **在庫水準 DI** は、3.4 (0.9 ポイント上昇) で、横ばい。
- (6) **収益 DI** は、▲24.1 (1.2 ポイント低下) で、マイナス幅がやや拡大。
- (7) **資金繰り DI** は、▲13.8 (0.5 ポイント上昇) で、横ばい。
- (8) **従業員の過不足 DI** は、▲38.6 (1.2 ポイント上昇) となり、マイナス幅がやや縮小。
- (9) **設備投資を実施した企業割合** は、22.8% (4.7 ポイント低下) とやや低下。来期はやや上昇の見通し。

注 1: DI は景気動向指数「ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index)」の略。「増加」(または「上昇」「好転」「過剰」) と回答した企業の比率から「減少」(または「下降」「悪化」「不足」) と回答した企業の比率を差し引いたものです。

注 2: () 内は前回調査との差を示します。

<調査要領>

- (1) 調査時点: 令和元年 11 月 14 日
- (2) 調査方法: アンケート用紙郵送による
- (3) 業種別回収数、回収率、配布数: 右表のとおり
- (4) 全体の有効回収率: 34.9%
- (5) 事業主体: 尼崎市
 調査主体: (公財) 尼崎地域産業活性化機構

<本資料の問い合わせ先>

- 尼崎市 経済環境局 経済活性化課
 担当: 西岡・下司 連絡先: 06-6489-6670
- (公財) 尼崎地域産業活性化機構 調査研究室
 担当: 宮崎・井上 連絡先: 06-6488-9501 (代)
<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

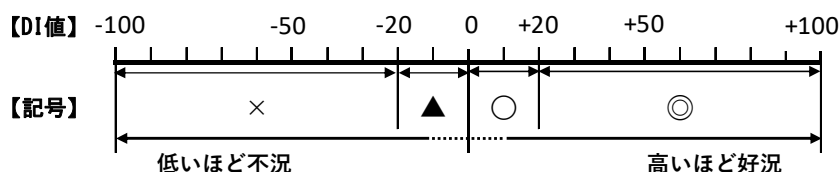
業種	回収数	回収率 (%)	配布数
全産業	349	34.9	1,000
製造業	114	43.0	265
大企業	19	51.4	37
中小企業	95	41.7	228
化学	18	52.9	34
鉄・非鉄	35	48.6	72
一般機械	32	50.8	63
電気機械	13	37.1	35
その他	16	26.2	61
非製造業	235	32.0	735
建設業	31	39.7	78
卸売業	27	47.4	57
小売業	45	26.5	170
サービス業	132	30.7	430

■景況調査結果の総括（令和元年10-12月期）

業種 項目	全産業 (総計)	製造業			非製造業				
		合計	大企業	中小企業	合計	建設業	卸売業	小売業	サービス業
今回 業況判断 DI値 ※1	▲ -19.9	▲ -14.0	▲ -5.3	▲ -15.8	× -22.7	○ 3.3	▲ -7.4	× -57.7	▲ -19.8
前回との 差 ※2	↓ -2.9	↓ -8.5	↓ -5.3	↓ -9.6	- -0.4	↑ 19.1	↑ 3.0	↓ -10.7	↓ -1.7

表のよみ方

※1：「業況判断DI値」(=「好転した割合」-「悪化した割合」)は、下図のとおり記号化しました。



※2：「前回との差」は、前回調査のDI値との差を、下表のとおり記号化しました。

記号	↓	↓	↓	-	↑	↑	↑
意味	大幅な下落	下落	やや下落	横ばい	やや上昇	上昇	大幅な上昇
DI値の差	-20.0以下	-20.0超～ -5.0以下	-5.0超～ -1.0以下	-1.0超～ 1.0未満	1.0以上～ 5.0未満	5.0以上～ 20.0未満	20.0以上

■産業別の概要

【製造業】「事業所の業況判断DI」は▲14.0（8.5ポイント低下）で、悪化しました。「出荷額DI」「収益DI」「資金繰りDI」はともに悪化しました。「売上単価DI」はやや低下し、「原材料仕入価格」もやや低下しました。「在庫水準DI」は横ばいでした。「設備投資」実施割合は低下し、平成23年4-6月期の以来の水準となりましたが、来期は上昇の見通しです。「従業員の過不足DI」はやや上昇しました。**来期業況はやや改善の見通し**です。

＜規模別の業況判断DI＞【大企業】【中小企業】ともに悪化しました。**来期業況は、【大企業】は大幅な改善、【中小企業】はやや悪化の見通し**です。

＜業種別の業況判断DI＞【鉄・非鉄・金属】ではやや改善しましたが、他の4業種は悪化しました。**来期業況は、【化学・プラ他】【その他】は改善、【鉄・非鉄・金属】【電気機械】は横ばい、【一般・輸送機械】はやや悪化の見通し**です。

【非製造業】「事業所の業況判断DI」は▲22.7（0.4ポイント低下）で、横ばいでした。「売上高・完成工事高DI」は改善、「収益DI」「資金繰りDI」はやや改善しました。「売上単価・客単価DI」は上昇したものの、「(原材料)仕入価格DI」も上昇しています。「在庫水準DI」は横ばいでした。「設備投資」実施割合はやや低下し、来期は横ばいの見通しです。「従業員の過不足DI」は横ばいでした。**来期業況は横ばいの見通し**です。

＜業種別の業況判断DI＞

【建設業】3.3（19.1ポイント上昇）となり、改善。来期は悪化の見通しです。

【卸売業】▲7.4（3.0ポイント上昇）で、やや改善。来期は横ばいの見通しです。

【小売業】▲57.7（10.7ポイント低下）で、悪化。来期は改善の見通しです。

【サービス業】▲19.8（1.7ポイント低下）で、やや悪化。来期はやや悪化の見通しです。

調査結果の詳細は、右記ホームページをご覧ください。<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>